

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年8月26日

【事業所概要(事業所記入)】

| | |
|---------|---|
| 事業所番号 | 4691200200 |
| 法人名 | 社会福祉法人 たちばな会 |
| 事業所名 | グループホーム 福山の里 |
| 所在地 | 鹿児島県霧島市福山町福山775番地2 (電話) 0995-54-7070 |
| 自己評価作成日 | 平成25年8月2日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

| | |
|-------------|---|
| 基本情報リンク先URL | http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46 |
|-------------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|------------------------------|
| 評価機関名 | NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構 |
| 所在地 | 鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号 |
| 訪問調査日 | 平成25年8月20日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

前方には錦江湾と桜島、後方には古戦場跡のある山々、周りにはみかん畑などがある自然豊かな環境である。
グループホームの隣には病院があり緊急時の対応が可能である事他に、2階3階は知的障害者のケアホーム、廊下伝いに住宅型の有料老人ホームやデイサービス、近隣には居宅介護支援事業所、障害者施設、美術館などがあり、災害時や緊急時の連携が可能である。また隣にある託児所とは年に数回の交流も行っている。
入居している方の殆どが近隣の為、入居者や家族、職員は顔なじみが多く、公民会の花見や夏祭り、地元の幼稚園小中学校合同運動会、中学校の卒業式等に毎年参加している。また、時々各自の墓参りや友人、知人宅へ遊びに行ったり、自宅に戻ったりして入居前の生活リズムを少しでも崩さないようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は医療法人グループの一つである。敷地内に、同法人の障害者施設をはじめ関連の医療機関や託児所・美術館などが隣接している。災害時の協力関係が構築されている。また緊急時の対応などの医療のバックアップ態勢も整っている。
- ・地元の利用者が多く、従来の関係や社会とのつながりが途切れないように地域との交流を支援している。玄関入り口のベンチや喫煙コーナーに馴染みの友人や知人が訪れて、憩いの場となっている。地域の介護相談所としての看板も掲げている。
- ・利用者個人々人をよく把握し、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように生活歴や力を活かした支援をしている。
- ・管理者は話しやすい環境を整えて、職員の意見や提案を積極的に反映させている。職員はケア対応等のさらなる質の向上に努めている。

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている | 理念は玄関に掲示しており、毎回ではないが朝礼時に理念について考え、自分たちが行っているケアを振り返る時間を設けている。 | 職員で話し合っって地域との関連性を重視した独自の理念をつくっている。朝礼時に唱和し、日常のケアに活かしている。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している | 中学校の卒業式や福祉体験学習、教諭の地域貢献研修の受入れ、幼稚園小中学校の合同運動会や各地区の運動会や夏祭り、花見会等の地域行事に参加している。 | 地域のイベントに準備の段階から参加し、積極的に地域密着をめざしている。中学生の職場体験学習や教員の地域貢献研修も受け入れている。子供との交流や介護相談所として地域に貢献している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。 | 認知症サポーター養成講座の講師を行ったり介護劇を行い認知症の啓蒙に努めている。また、中学校や独居老人の会において認知症についての講義を行っている。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 年6回開催し、毎回事業所の報告を行っている。委員の方々から出た意見は必要に応じてサービスに活かしている。 | 家族や地域・消防署員・警察署職員・中学校校長・行政職員等の参加で定期的開催している。事業運営や外部評価結果の報告を行い、出会者から意見が出され、サービスの向上に活かされている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | 4 | <p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p> | <p>認知症サポーター養成講座で講師を行ったり、霧島市主催の健康福祉祭りにスタッフとして参加したり、霧島市主催の研修を共同で計画したり、地域ケア会議に出席している。</p> | <p>市の担当者とは、市の依頼で認知症サポーター養成講座の講師を引き受けたり、研修会にも積極的に参加している。福祉関係の担当者とも直接相談したり、メールでもやり取りを行い、連携関係ができています。</p> | |
| 6 | 5 | <p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p> | <p>身体拘束委員会を設け、年に1回勉強会を行い周知を図っている。外出される利用者もいるが玄関の施錠はせず見守り等に対応している。</p> | <p>年1回勉強会を実施し、職員の共有認識を図っている。昼間の玄関は施錠せずに職員間の連携で安全な暮らしを支援している。事故防止のための身体拘束については、家族に説明し同意書を得ている。</p> | |
| 7 | | <p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> | <p>年に1回勉強会を行い周知を図っている。また虐待に繋がっていきそうな時は職員同士で注意し合っている。</p> | | |
| 8 | | <p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p> | <p>年に1回勉強会を行っている。また、必要と思われる方にはご家族等に入居前に説明している。</p> | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | 入居の相談があった時点でパンフレットや重要事項説明書を渡し、入居前には説明を行っている。また後日不明な点が出てきた際でも対応する事を伝えている。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | 利用者からはその都度、家族等からは来訪時などに要望などを聞くようにしている。要望は必要に応じて運営に反映させている。 | 日頃から何でも言ってもらえる雰囲気作りに留意している。家族会や面会時もよい機会としている。利用者一人ひとりの状況を写真と一緒に県外の家族にも送付している。出された事項は職員で話し合い運営に反映させている。 | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | 随時、口頭又は申送りノート及び月1回の職員会議において意見交換を行っている。意見等は必要に応じて法人に提案している。 | 管理者は申し送りやミーティング等で職員の意見や気づきを聞く機会を設け運営に反映させている。相談事は個別に聞き適切にアドバイスをしている。サービスの質の確保に繋がっている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。 | 希望する休日は出来る限り勤務表に反映している。また資格取得に応じた手当を支給し、介護福祉士を取得したら希望に応じて常勤職員として勤務できる様再契約している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 13 | | <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p> | <p>研修の年間計画を立て勤務年数、力量等に応じた研修に参加している。また、1年間の中でほぼ全員研修参加している。</p> | | |
| 14 | | <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p> | <p>霧島市地域密着型事業者連合会や始良伊佐グループホーム協議会での研修、懇親会、他グループホームでの実習を通じて情報交換や勉強会を行っている。</p> | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に自宅等に伺い、話や要望を聞いている。また、入居前には本人に見学して頂くようお願いしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前に自宅等やグループホームにおいて話や要望を聞いている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居前に本人や家族から聞き出した事や直接見た事などや、ケアマネージャーからの情報を参考にし、必要があれば別なサービスの資料を元に説明を行っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居者と一緒に地域行事に参加したり洗濯物たたみ等を一緒に行ったり、入居者の指示の元ドライブに行ったりしている。調理方法や福山町の歴史について利用者の方に尋ねる事もある。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | | <p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p> | <p>入居前に職員と家族と一緒に介護していく事を確認している。時には月1回の遠足に家族も一緒に行っている。</p> | | |
| 20 | 8 | <p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p> | <p>自宅のある地域行事に参加したり、ドライブを兼ねて知人宅に行ったりしている。</p> | <p>地域行事に職員と一緒に参加したり、行きつけの理・美容院に行ったり、ホームの玄関脇にベンチと喫煙コーナーを設け、馴染みの友人や知人が訪れ、憩いの場となっている。</p> | |
| 21 | | <p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p> | <p>月に1回は遠足に出かけたり、入居者間でコミュニケーションが取れるよう日常的に職員が間に入りフォローしている。</p> | | |
| 22 | | <p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p> | <p>契約が終了しても入院先や入居施設を訪問したり、ご家族と電話で話をしたり、時々グループホームに遊びに来られたりしている。</p> | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | 本人との日頃の会話や行動、表情等、または家族と話す事において意向や思い等を把握するように努めており、朝礼や職員会議等において検討及び周知している。 | 家族や関係者からの情報を得るとともに、本人の日々の関わりの中で、ちょっとした言葉や表情などから思いや意向の把握に努め、職員間で話し合い、本人中心の支援を行っている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前には自宅に訪問したり又入居後にも本人や家族、ケアマネージャーや知人より話を聞いたりしている。また、若い時の写真を幾枚か見せて頂く事により以前の生活を職員が肌で感じるとれるようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 入居前に情報を収集し、入居後も言動や体調などを日々関わる中で把握し、朝礼や申し送り簿等において共有できるようにしている。 | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人や家族、知人等と日常会話中で、どのようにしていったらよいか等の話を行っており、月1回の職員会議等にてモニタリングを行い、それらの情報を元に計画書を作成している。 | 本人や家族の意向を汲み取った上で、職員間で話し合い介護計画を作成している。1ヶ月毎にモニタリングを、3ヶ月毎にカンファレンスを実施し見直している。変化があればそのつど見直している。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々交わした会話や言葉、行動をそのまま記録に残し、必要があれば朝礼時や日々の業務の合間に申し送ったり、申し送り簿に記載したりして共有している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 病院へ入院された際の洗濯や食事介助、夜間付添い等、入居者の外出外泊支援など家族が何らかの事情で行えない事を支援している。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 民生委員や近隣の警察官、消防団員に運営推進会議委員になっていただき入居者の把握を行ってもらっている。 | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人や家族が希望される医療機関に受診してもらっている。基本的に病院送迎や付添いは職員が行っており受診結果は職員から家族に報告している。 | 本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関との連携を取りながら、通院は職員が対応し、結果を家族に報告している。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護職員は勤務していないが、管理者や職員間で情報を共有し必要があればかかりつけ病院に連絡をし指示を仰いでいる。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入退院時のみでなく入院中も定期的に様子を見に行き、病院と連携し家族との情報共有に努めている。 | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 現段階では看護師が入職していないこともあり看取りが行える体制は整っていないが、看取りが行える体制にもっていけるよう進めている段階である。家族にもそのように説明している。 | 重度化や終末期に際しては、事業所が取り得る対応について本人と家族に説明し、同意書ももらっている。状況に応じ主治医に相談し、繰り返し話し合い意思を確認している。職員全員がその方針を共有している。看取りについて、訪問看護も取り入れる方向で検討中である。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時や事故発生時の対応マニュアルはあるが、それとは別にその時考えられる状態に対しての対応を職員間で確認し合ったりしている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|----------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練を同法人の他事業所と連携し年2回行っている。水害などの避難先を運営推進会議で話し合ったことはあるが、現段階では地域との協力体制は築かれていない。 | 年2回消防署の指導のもと、昼夜間想定避難訓練を同法人の他事業所と連携し実施している。さらに定期的に自主訓練も行っている。同敷地内の他施設や法人寮とは協力体制が構築されている。地域マップを整備し地域住民との協力体制も整える方向である。 | 地域との協力体制が整うことが期待される。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 名前の呼び方や日頃の接し方など職員と入居者がなれ合いの関係にならない様職員会議等で話し合っている。特に排泄時は羞恥心に配慮した声掛け、対応を行うようにしている。 | 日々の関わりの中で、利用者の尊厳に配慮したケアや言葉かけに努めている。居室や浴室の入り口に暖簾を活用し、プライバシーに配慮している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 食事や調味料の好みを聞いたり外出したい場所を聞いたりし、職員が主導とならないようにしている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 各自に合わせた起床、就寝してもらっている。食事を摂る時間も各自の希望に応じており、特に朝食を摂る時間は毎日各自様々である。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している | 服はなるべくその方々に合いそうな服を勧めている。また希望される方は髪を染めたり、行きつけの床屋や美容院に行っている。 | | |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 現在は片付けを行われる方はいるが、調理を好んで行う方が居ない為一緒に調理を行う事は無い。今まで昼食は同法人の厨房で作られていたがグループホームで作る様徐々に移行している。毎食ではないが好みを聞いてメニューを作ったり、弁当を作って外で食べたり、各自行きたいお店で外食したりしている。 | 利用者の嗜好に配慮した献立を工夫している。後片づけを職員と一緒にいたりしている。誕生会や行事・外出時など、食事が楽しみなものになるよう工夫している。嗜好によっては軽く飲酒も楽しめるように支援している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 摂取量を毎回記録し不足しないように注意している。また様々な飲み物を準備し好みに応じて飲んでもらっている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 起床時や食後に歯磨きを行っていただくよう声掛け、支援を行っている。 | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 日中は全介助の方もトイレに座ってもらい自然な排泄が行えるように、またパンツやパットのみでの使用になるようにも支援している。 | 個々の排泄パターンを把握し、自尊心に配慮しながらトイレでの排泄を大切にしている。夜間は、ポータブルトイレを使う等、おむつを使わない取り組みと排泄の自立を支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 繊維質が入った物を食べてもらったり散歩やボール遊びなどの軽めの運動を希望に添って行っている。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している | 毎日午前午後と入浴する事はできるが、定期的な夜間入浴は行えていない。各自の入浴パターンに合わせている為毎日入る方もいる。無理強いせずタイミングをみて入浴の声掛けを行っている。 | 各人の希望に添った入浴ができるように支援している。入浴を拒む人にも、職員間で連携し、できるだけ状況改善に努めている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 居室やリビングの畳、ソファなど好まれるところで休んでもらっている。夜間寝つれない時は眠たくなるまでリビングで過ごされる事もある。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 記録簿に薬剤情報を添付している。いつでも見る事ができるようにしている。薬が変更になった場合は送りノートに記載し情報を共有している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 食事メニュー表の記載や職員の勤務ネームプレートの張り替え、洗濯物たたみ等その方の行える範囲で役割を持っていただいている。また、希望により晩酌を行ってもらっており、喫煙も随時行ってもらっている。 | | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。 | 希望に応じてドライブや散歩を行っている。希望される所へ月に1回遠足に行ったり、家族や知人と共に地域行事に参加している。 | 一人ひとりの楽しみごとに合わせて、近隣の散歩や買い物・ドライブ・墓参・漁港での釣りなど、戸外に出かけられるよう支援している。さらに計画を立てて遠足やソーメン流しなど、家族も一緒に出かけることもある。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | <p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p> | <p>金銭の管理保管は職員で行っているが、買い物に行く時等可能な方はその都度所持して頂き自分の財布から支払って頂けるよう支援している。</p> | | |
| 51 | | <p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p> | <p>お礼等のはがきや手紙を書いて郵送できる様に支援している。電話はいつでもやり取りができる様支援している。</p> | | |
| 52 | 19 | <p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>室温湿度が季節感が感じられる程度に適度に保たれるよう留意している。共有空間には花を置いたり和風の飾り物を飾ったりしている。</p> | <p>共用の空間は換気や採光に配慮し開放感がある。フロアは畳敷きで廊下は絨毯になっており、スリッパや上履きのない生活である。広い窓から海を眺めながらその周囲のソファで居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> | |
| 53 | | <p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p> | <p>リビングや廊下には椅子を多く置いてどこでも座れるように配慮している。廊下には暖簾をかけ、観葉植物を置き、玄関やリビング側からは直に見えないように配慮している。</p> | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 54 | 20 | <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>持ち込むものに関しては特に制限はせずに、なるべく多くの私物を持ってきていただくようお願いしている。布団や枕、茶碗や箸等今まで使っていた物を持ってきてもらっている。</p> | <p>居室にはベッドやタンス・鏡台・クローゼットが備え付けてあり、それぞれの使い慣れた品物が持ち込まれている。窓から海が眺められて、居心地の良さに配慮している。</p> | |
| 55 | | <p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p> | <p>手すりの設置や畳や絨毯を敷きつめる事で転倒による怪我のリスクを軽減している。トイレや浴室がわかるように入口にのれんや名札を使用している。椅子の使用を奨励し、車椅子の常習化防止に努めている。</p> | / | / |

V アウトカム項目

| | | | |
|----|---|---|---------------|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25) | | 1 ほぼ全ての利用者の |
| | | ○ | 2 利用者の2/3くらいの |
| | | | 3 利用者の1/3くらいの |
| | | | 4 ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38) | ○ | 1 毎日ある |
| | | | 2 数日に1回程度ある |
| | | | 3 たまにある |
| | | | 4 ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4 ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4 ほとんどいない |

| | | | |
|----|--|---|---------------|
| 60 | 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4 ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4 ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4 ほとんどいない |
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19) | ○ | 1 ほぼ全ての家族と |
| | | | 2 家族の2/3くらいと |
| | | | 3 家族の1/3くらいと |
| | | | 4 ほとんどできていない |

| | | | |
|----|--|---|---------------|
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19) | | 1 ほぼ毎日のように |
| | | ○ | 2 数日に1回程度ある |
| | | | 3 たまに |
| | | | 4 ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4) | | 1 大いに増えている |
| | | ○ | 2 少しずつ増えている |
| | | | 3 あまり増えていない |
| | | | 4 全くいない |
| 66 | 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12) | ○ | 1 ほぼ全ての職員が |
| | | | 2 職員の2/3くらいが |
| | | | 3 職員の1/3くらいが |
| | | | 4 ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 | | 1 ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4 ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 | | 1 ほぼ全ての家族等が |
| | | ○ | 2 家族等の2/3くらいが |
| | | | 3 家族等の1/3くらいが |
| | | | 4 ほとんどいない |